

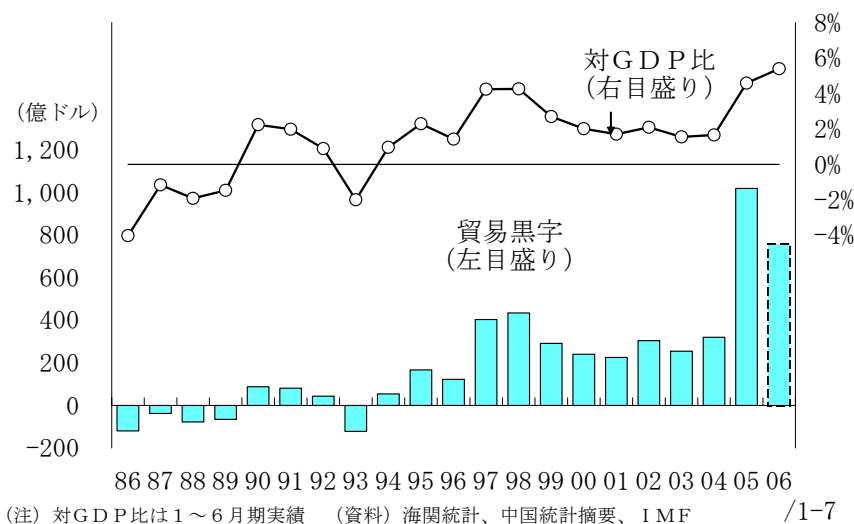
Weekly エコノミスト・レター

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門

拡大が続く中国の貿易黒字

- ・ 今年1～7月期の中国の貿易黒字は前年同期を5割上回る759.5億ドルに達し、通年の貿易黒字は、過去最高となった2005年を上回る見通しとなっている。
- ・ 貿易黒字の増加は、繊維・衣類、その他製品という労働集約的製品の黒字拡大と金属製品、機械機器の収支の黒字転化によるものである。
- ・ 機械機器は域内での産業内貿易の発展により貿易の過半を占めており、収支の改善は、輸出生産能力の増強、汎用部品等の輸入代替の進展、設備投資の一巡によるものである。輸出の担い手、貿易黒字の稼ぎ手としての外資系企業のプレゼンスは高まっている。
- ・ 貿易黒字が膨らむ過程で、最終製品の輸出先となっている米国やEUに対する黒字が増加する一方、集積回路や液晶デバイスなど基幹部品等の調達先である日本、台湾、韓国などへの赤字拡大は続いている。中国を巡る貿易不均衡は、労働集約的製品分野での中国の比較優位とともにアジア域内分業の広がりを反映したものである。

拡大が続く中国の貿易黒字



主任研究員 伊藤 さゆり (いとう さゆり) (03)3512-1832 ito@nli-research.co.jp

ニッセイ基礎研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 3F

ホームページアドレス: <http://www.nli-research.co.jp/>

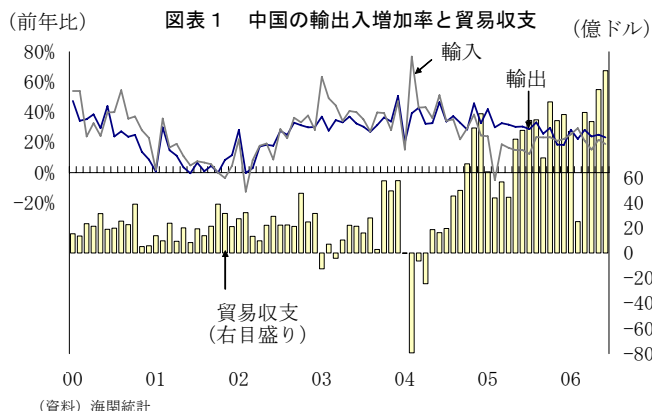
＜ 拡大が続く中国の貿易黒字 ＞

●貿易黒字は労働集約的製品と電気機械で増大

（ 1～7月期の中国の貿易黒字は過去最高の 2005 年を大きく上回る勢い ）

今年 1～7 月期の中国の貿易黒字は 759.5 億ドルに達した。貿易黒字の水準は、前年同期をおよそ 5 割も上回っており、通年の貿易黒字は、過去最高となった昨年の 1,020 億ドルを上回る見通しとなっている（表紙図表参照）。

中国の貿易黒字は 90 年代半ばに定着し、2000 年以降は対 GDP 比 1.8% 前後での推移が続いていたが、2004 年初に、投資過熱を背景とする素原材料等の輸入急増で一時的に赤字化、引き締め策導入後の同年 5 月に黒字を回復した後、急速に膨らんだ。2005 年の貿易黒字の急増は、輸出が前年比 28.7% の伸びを維持する一方、輸入は同 17.6% に抑えられたことによるものであり、貿易黒字は対 GDP 比でも 4.6% と過去最高を記録した。2006 年入り後は、輸出伸び率が同 24.8%、輸入伸び率が同 21.1% と 2005 年に比べて伸び率の差は縮まっているが、なお輸出が輸入を上回っているため、対 GDP 比で見た黒字の規模も 5.4%（1～6 月期実績）と昨年を上回る勢いとなっている（図表 1）。

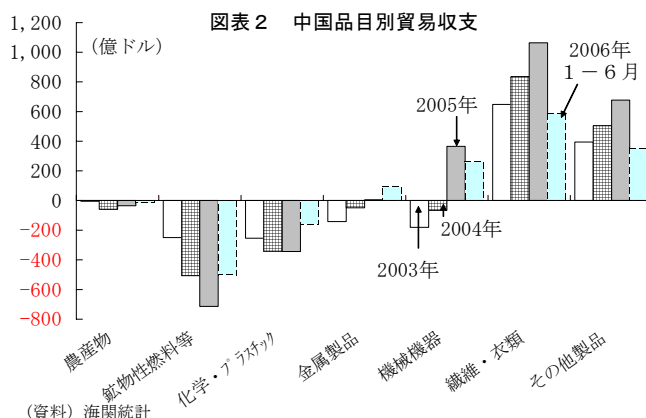


（ 労働集約的製品の黒字拡大と金属製品、機械機器の収支黒字化が主因 ）

最近の中国の貿易黒字拡大の主因は、労働集約的製品の比較優位の一層の高まりと、組立加工貿易が活発に行なわれている機械機器の収支改善にある。

2004 年までの品目別に見た貿易収支の基調は、鉱物性燃料等と化学・プラスチックの赤字幅が大きく、農産物、金属製品、機械機器は小幅な赤字、繊維・衣類・履物等、その他製品（食品、皮革製品、木材・同製品、履物・帽子等、家具・玩具等）が黒字というものであった。

しかし、2005 年以降は、繊維・衣類とその他製品の黒字がさらに拡大するとともに、金属製品と機械機器の貿易収支が黒字転化、特に機械機器の黒字幅が大きく拡大した。これらの品目における貿易黒字拡大の勢いは、原油価格上昇による鉱物性燃料等の赤字拡大を補って余りあるものとなっている（図表 2）。



（労働集約的製品では比較優位が向上、機械機器では産業内貿易が広がり）

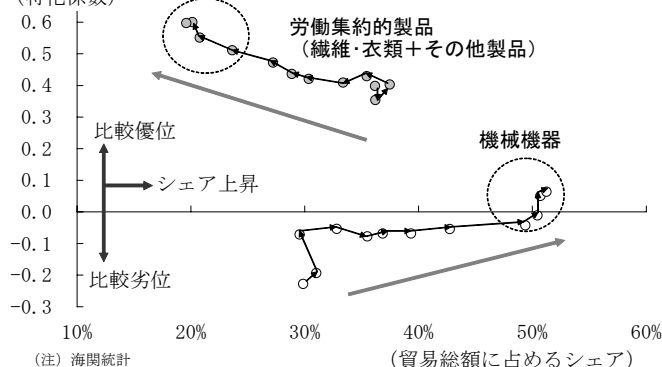
特化係数は、品目別の貿易収支（輸出－輸入）を分子とし、当該品目の貿易額（輸出＋輸入）を分母として求める指標である。この値がゼロから1に分布するものは比較優位、ゼロからマイナス1となるものは比較劣位品目であり、分母となる貿易額が多く、特化係数がゼロに近いものは、同一の製品分野内での双方向の貿易が活発であることを示す。

図表3は、貿易黒字の拡大に寄与している労働集約的製品（繊維・衣類＋その他製品）と機械機器について、95年以降の貿易額と貿易収支の変化の様子を、貿易総額に占めるシェアと特化係数によって示したものである。

労働集約的製品については、この間、貿易額の伸びが全体を下回る状況が続いており、過去10年で16%あまりシェアが低下、2006年1～6月期には合計で20%を下回るまでになっている。その一方、貿易黒字は着実に拡大しており、特化係数が示す比較優位の度合いは高まっている。

これに対して、機械機器の貿易は全体を上回るペースでの拡大が続き、特に2000年代に入ってからシェア上昇のペースが加速、2004年以降は5割を上回るようになった。特化係数がゼロに近い水準で推移しながら、貿易額が拡大していることから、双方向での貿易が活発化したことが分かる。図表2で見たとおり、機械機器の貿易収支は、2005年に黒字転化した後、2006年1～6月にはその他製品に迫るまでになっているが、特化係数は分母となる貿易金額が大きいため、0.1を下回る水準にある（図表3）。

図表3 中国の貿易品目別シェアと特化係数（95年→2006年1-6月）
（特化係数）

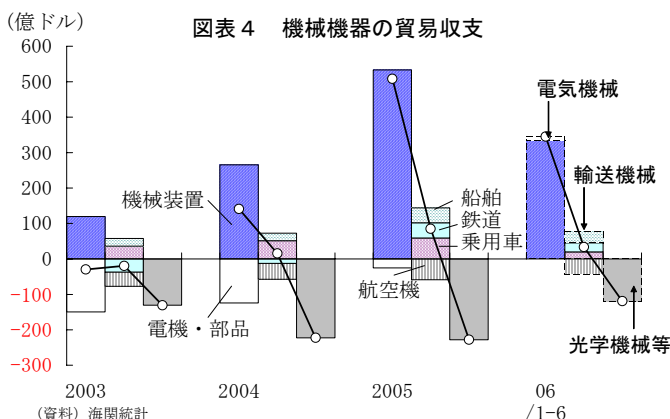


（機械機器の貿易黒字は輸出生産能力の向上、輸入代替の進展、設備投資の一巡を反映）

中国の機械機器貿易の拡大は、中国国内の生産拠点が、アジア域内に広がる工程間の分業ネットワークの一部に組み込まれており、域内で比較優位に応じた工程間の分業や、部品の相互融通が広がっていることを反映したものである。

機械機器は、世界統一の貿易商品分類（HSコード）では、電気機械、輸送機械、光学機械等に3分類される。中国の

場合、電機機械が機械機器貿易の8割、貿易総額の4割を占める構造となっている。中国の機械機器貿易の収支は、2003年までは、電気機械、輸送機械、光学機械等のすべてで赤字であったが、



2004 年以降、光学機械等で赤字が続く一方、電気機械と輸送機械の収支は黒字となっている（図表 4）。しかし、輸送機械の黒字は小幅で、2006 年 1～6 月期は、貿易摩擦緩和のための航空機輸入の影響もあって前年比で縮小しており、貿易黒字拡大への貢献度は小さい。2005 年以降の機械機器貿易の収支の黒字転化は、電気機械の黒字幅が一段と拡大したことが主要因となっている。

統計上、電気機械は、機械装置（HS コード 84）と電機・部品（同 85）に 2 分されているが、機械装置の貿易収支は 2003 年に黒字転化後、拡大が続いている。これは、パソコン、プリンターなどの情報機器とその周辺機器（同 8471、8473）の黒字が拡大する一方、設備投資の一巡で製造機械関連の輸入による赤字がピークアウトしたことによる（図表 5）。

電機・部品では、携帯電話・デジタルカメラ・DVD レコーダー（同 8525）やテレビ（同 8528）などの民生用電気機器や部品類を輸出し、半導体デバイス（同 8541）、集積回路（同 8542）、プリント基板（同 8534）などの基幹部品を輸入する構造となっている。電機・部品の収支が、2003 年をピークに赤字幅が縮小、2006 年 1～6 月期に小幅ながら

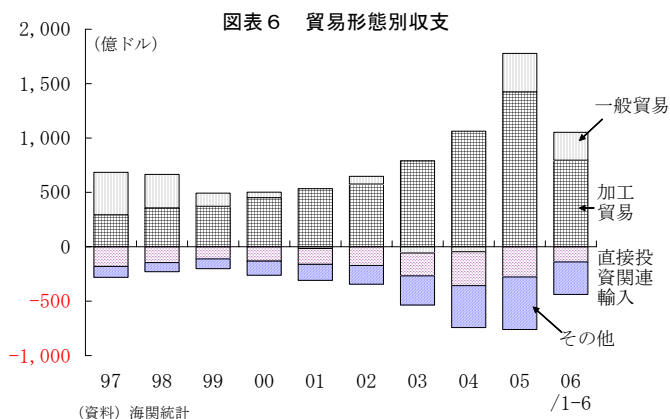
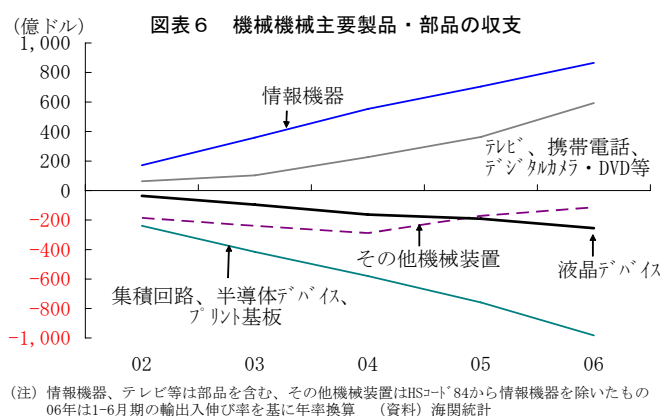
黒字に転化したのは、携帯電話や液晶テレビなどの製品輸出が加速すると同時に、汎用品を中心に関連部品の輸入代替や輸出転化が進展したことによる。

半導体デバイス、集積回路、プリント基板等は、域内で品質による差別化分業が広がっている代表的な基幹部品であり、輸入代替や輸出転化の進展により、輸出が輸入を上回るペースで拡大するようになっている。しかし、輸出入の絶対額の格差が大きいため、貿易収支の赤字は拡大している。同様の傾向は、光学機械等の赤字の大半を占める液晶デバイス（同 9013）にも見られる。これら基幹部品の主たる調達先は、日本、台湾、韓国であり、液晶デバイスの場合には、2000 年までは日本が最大であったものの、2006 年 1～6 月期には台湾が 41.4%、韓国が 28.8%で 2 大調達先となっており、日本のシェアは 8.6%まで低下している。

（ 高まる輸出の担い手、貿易黒字の稼ぎ手としての外資系企業のプレゼンス ）

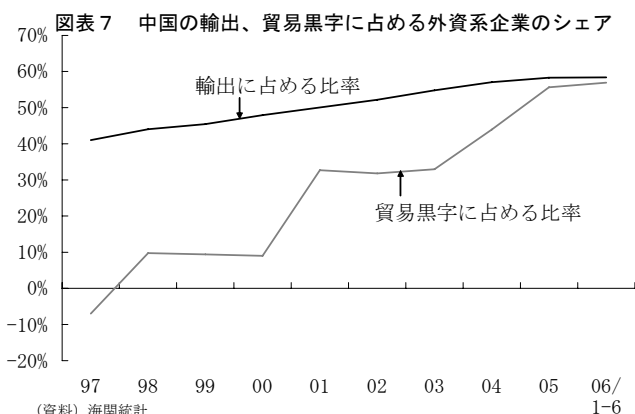
これらをまとめると、2004 年以降の機械機器の収支の黒字転化は、パソコンとその周辺機器や携帯電話、液晶テレビ、デジタル家電等の輸出生産能力の拡大、汎用部品類での輸入代替の進展、設備投資の一巡により機械装置の輸入が減速したことによるものと考えることができる。

こうした変化は、形態別に捉えた貿易統



計での加工貿易の黒字幅拡大や、直接投資関連輸入が頭打ちとなっている様子からも確認することができる（図表6）。

こうした中国の輸出能力の拡大、構造の変化に、外資系企業は一貫して大きな役割を果たしている。輸出に占める外資系企業のウェイトは2006年1～6月期で58.4%に達している。貿易黒字に占める比率は、ここに来て大きく上昇しており、輸出の担

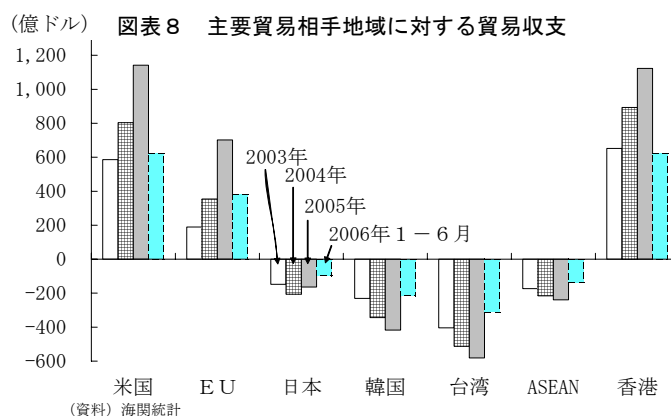


●域内分業の広がりで見え出した貿易不均衡も拡大

(欧米向けの黒字とアジア向けの赤字が同時に拡大)

貿易黒字が膨らむ過程で、米国、EUに対する黒字は拡大、日本や韓国、台湾などのアジア諸国への赤字は拡大、というように地域別に見た不均衡はさらに広がっている（図表8）（注1）。

これは、電気機械を始めとする幅広い品目で、米国やEUが最終製品の主たる輸出先となっている一方、中国国内における組立加工に必要な基幹部品等を日本、台湾、韓国などから行っていることによる（注2）。



中国を巡る貿易不均衡の拡大は、労働集約的製品分野での中国の比較優位とともに機械機器分野でのアジア域内分業の拡大を反映したものである。

(注1) 香港向けの黒字は、統計上、香港を経由した第3国への再輸出分が香港向けの輸出として計上される一方、香港経由の輸入は各原産地に計上されることによる。香港の統計によれば香港－中国間の貿易は概ね均衡しており、中国の香港経由貿易の収支構造は直接貿易と同様である。

(注2) 中国と米国、日本、韓国、台湾との貿易構造については、「経済調査レポート No.2004-4 中国引締め策の対外的影響」2004年8月もご参照下さい。